

ご挨拶

2014年も多くの自然災害に見舞われました。

記憶に新しいところに御嶽山の噴火があり、

自然を甘くみてはいけないことを、あらためて感じる出来事でした。

明るい話題としては、ノーベル物理学賞を日本人の3名の研究者が受賞されました。

山中教授の受賞に引き続き日本の研究や技術力を顕すもので、日本人として誇り高く、

そしてとても嬉しく感じました。

我々の暮らしの中で、便利で当たり前になっているモノが、

実は日本人研究者の不断の努力の結晶であったことを今さらのように知らされ、

地道な研究の成果は多大なるイノベーションを引き起こすという、

これこそノーベルが理想としたかたちなのではないかと思いました。

ところで、3名の研究者は揃って「謙虚」でした。口々に発せられる言葉は、

「決して私ひとりではできなかったわけではない」「支えていただいた皆さんの大きなサポートのおかげ」と

感謝の意を述べられています。まさに超一級の方の言葉。そして、皆さん「私は幸運」とも言われています。

きっと懸命に頑張っている人に、幸運の女神は微笑むのでしょうか。

受賞者の一人である赤崎さんは著書の中で、「研究はどうやるか（How）ということも大事だが、

それ以上に何をやるか（What）がより大事だと思う」と述べられています。

「それを本当に自分がやりたいのであればやりなさい。それが一番だと思います。自分がやりたいことだったら、なかなか結果がでなくてもやり続けることができると思います」と。

何かができないと、どうしてできないかをもっともらしく説明する人が多くいます。

しかし、本当によいと思ったことであれば、それがうまくいくまでやり通すことが大切なのです。

これは我々の行っている医療にも通じるところがあります。逆風が吹こうと、常に困難の連続であろうと、

患者様にとってよいと思う医療を、今後もスタッフとともにやり通していきたいと思っております。

名古屋アイクリニック院長 中村 友昭

- 1988年 宮崎医科大学（現宮崎大学医学部）卒
- 日本眼科学会認定眼科専門医
- 日本抗加齢学会認定専門医
- 日本眼科学会屈折矯正手術講習会講師
- 日本眼内レンズ屈折手術学会誌編集委員
- 日本手術学会プログラム委員
- スターサージカル社認定 ICL インストラクター



アニュアルレポート発刊に寄せて

名古屋アイクリニック 2014年アニュアルレポート発刊まことにめでとうございます。

名古屋アイクリニックは、厚生労働省が眼科用エキシマレーザー装置を医療用具として正式認可した

2000年より先立つこと2年、眼科医による屈折矯正手術の本格的な施設として開設されました。

当時、私は中村友昭先生のことは存じあげませんでしたが、その後、学会での講演などを拝聴して、

屈折矯正手術に非常に真面目に取り組んでおられる先生であると認識しました。

特に、ここ数年は毎年、日本臨床眼科学会で屈折矯正手術のインストラクションコースを

ご一緒させていただいており、先生の臨床経験と知識の豊富さに感嘆しております。

名古屋アイクリニックは、16年前、医療機器もアメニティーも非常に充実させて開院されましたので、

私たち関西の人間からしますと「名古屋中京グループは違う」と感じた次第であります。

その後、科学的なバックグラウンドを持って手術を行い、データ解析をしっかりと行い、

学会にフィードバックするという、中村先生のお考えのもとで屈折矯正手術に精力的に取り組んで来られました。

実際、名古屋アイクリニックは、治療データから得た知見を、日本国内はもとより、

欧米の専門ジャーナル誌にも報告され、これらが日本の屈折矯正手術の進歩に大きく結びついており、

心より敬意を表するものであります。

昨今のバイアスの入ったマスメディア報道を背景に、屈折矯正手術の将来をいささか危ぶむ声が

聞こえて参りますが、この手術はこれからいよいよ次のステップに入っていくと思われます。

実際、屈折矯正手術は、欧米では社会的に十分に認知された眼科診療分野のひとつとして確立しており、

日本でも、あと数年を経て屈折矯正手術が大きく花開いてくるものと私は信じています。

名古屋アイクリニックは、中村友昭院長を始めとする医学的に優れた先生方の集まりです。

今後も科学的なバックグラウンドを持ち、EBM（エビデンス・ベースド・メディスン＝医学的な実証）を積み重ねていかれることと思います。

日本における屈折矯正手術の拠点の一つとして大きく発展して行かれることをご祈念申し上げます。



京都府立医科大学眼科学教室教授
バプテスト眼科クリニック最高顧問
木下 茂

<基本理念>

ハートのある医療

<基本方針>

常に最先端の医療で、安心と満足を提供します

患者様の意志と人格を尊重し、最善の医療を提供します

目のパートナーとして、いつまでも良い信頼関係を築きあげるように努めます

先進医療機関

2009年5月1日、多焦点眼内レンズを用いた白内障手術に対し、厚生労働省より「先進医療実施医療機関」に認定されました。

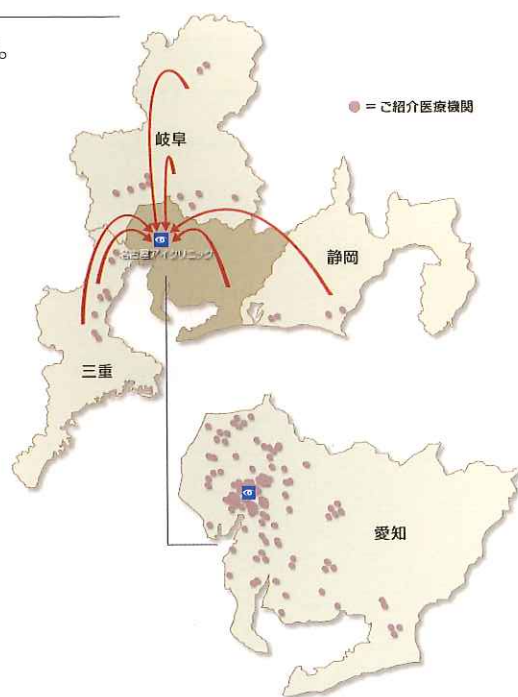
厚生労働省に承認されている全3種類のレンズの他にも豊富な種類を取扱い、患者様にあった眼内レンズを選択します。多焦点眼内レンズの手術実績は2014年12月20日現在511眼に達しています。



他院からのご紹介

県内外200以上もの一般眼科から、患者様をご紹介いただいています。

2014年のご紹介内訳



病診連携

当院から約10分の距離にある中京病院と病診連携を結ぶことにより、重篤な患者様でも速やかにご紹介することが可能です。



社会貢献

医療を通じて社会に貢献する

●子育て支援・ボランティア応援レーシック

子育てを頑張るお父様、お母様、またボランティアなどで社会貢献をされている方を応援するプロジェクトで、費用のご負担を少し軽くしてあります。

●清流堀川を守る活動

伝統の「堀川祭り」を通して、清流を守る活動に協力しています。

●もうまく基金

今はまだ不治の眼病である「網膜色素変性症」を治せる病にすることを目指した活動を応援しています。



●アイバンク啓発ミュージカル

移植・再生医療を支える会主催、児童劇団「大きな夢」公演のミュージカル「パパからもらった宝物」にて中村院長が講演を行いました。購入いただいたチケット代は全てアイバンクへ寄付されました。

●骨髄バンク普及映画を作る会

骨髄バンクの普及と啓発に協力しています。



以下の社会貢献は引き続き行っています

■ペットボトルのキャップでポリオワクチンを！

エコキャップ推進協会に送った後、リサイクル業者に売却され、その売却益が「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会」に寄付されます。



■待合室で社会貢献紙コップ

待合室に置いてある社会貢献紙コップは、売上の3%が東日本大震災の復興支援金として寄付されます。



■桃・柿育英会

東日本を襲った大地震や大津波で、保護者を突然失った多くの遺児たちを10年以上支援する桃・柿育英会（東日本大震災遺児育英資金）の活動に参加し、2014年には4回目の寄付金分配が行われました。少なくとも10年間は子どもたちの成長を見守りながら、良好な教育環境の中で学んでいく意欲を支え続けたいと考えています。



■リサイクルメガネの寄付

世界各地の難民、国内避難民の方々にメガネを送る海外難民視力支援ミッションに協力しています。

■盲導犬育成のための募金

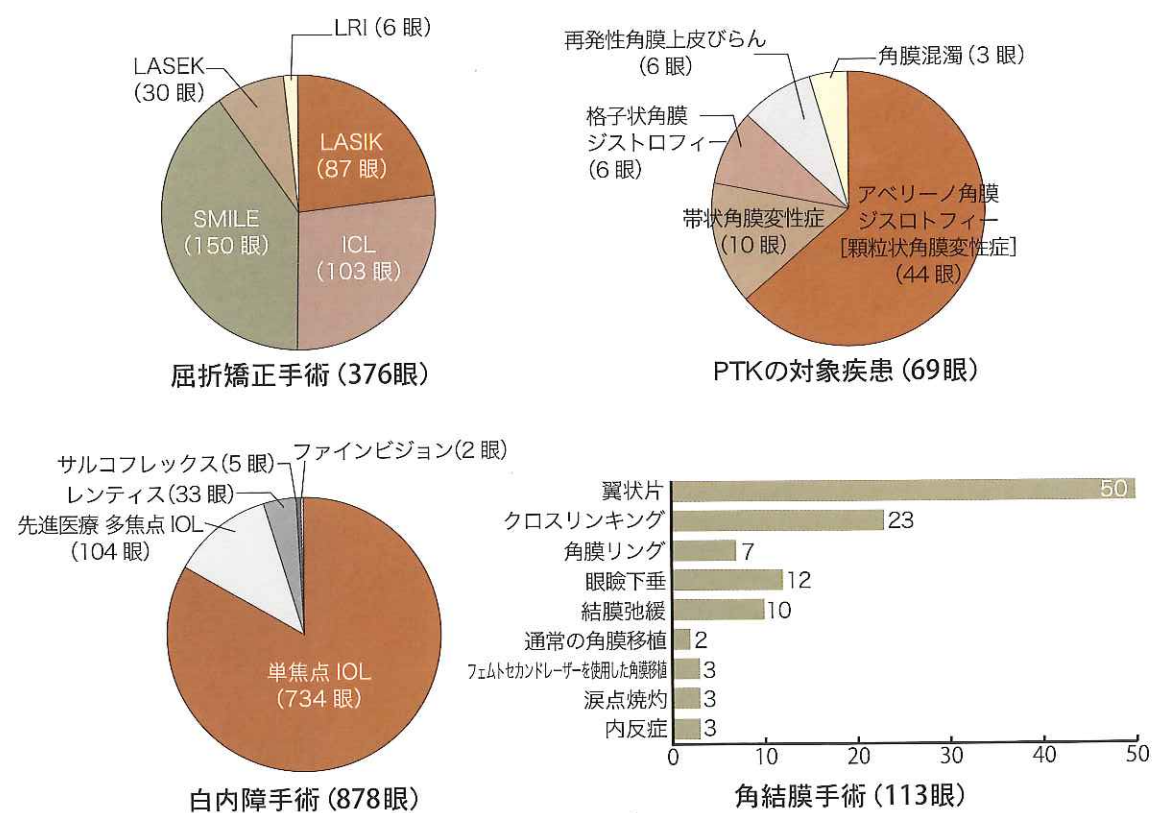
毎年、募金は財団法人日本盲導犬協会へ寄付しています。

■アイバンク募金

年に数回、財団法人愛知県眼衛生協会（愛知県アイバンク）へ寄付しています。



2014 年手術件数



■ 1999 年 1 月に中部地方で初めてレーシックを開始し、16 年の実績があります。

- ・レーシック = 16,152 眼
- ・多焦点眼内レンズ = 511 眼
- ・フェイキック IOL = 1,146 眼
- ・白内障手術 = 20,000 眼以上

※ 2014 年 12 月 20 日現在

小切開手術へのこだわり

Minimum invasive surgery

- ・ 2.0mm でのレーザー角膜屈折矯正手術 SMILE
- ・ 2.4mm での白内障手術 IOL
- ・ 2.9mm での有水晶体眼内レンズ ICL



2014 年 11 月 28 日～30 日に韓国
プサンで「Asia Pacific Refractive
Laser Symposium 2014」が行われま
した。
中村院長が屈折矯正手術の小切開に
ついて講演をしました。

今や世界の医療は、単に難しい病気を治すだけでなく、体の負担をできるだけ軽減し、そのうえでさらに効果的な治療を行うという低侵襲医療を目指す時代となりました。腹部外科手術も、内視鏡を用いて患部だけを取り出すといったものになってきています。これにより、1ヶ月の入院が当たり前だった治療が、今では数日の入院ですぐ退院できるようになってきました。我々眼科の世界では、元々顕微鏡を使った微細な手術が発展してきましたが、その創口も技術とともに年々小さくなり、より侵襲の少ないものに進化しています。

その結果、更により視機能を早期に回復することができるようになりました。名古屋アイクリニックでは、あらゆる手術において 3mm 未満の小切開にこだわり、負担を少なく、より良い視機能を目指しています。

医師紹介 Doctors

角膜移植術、屈折矯正手術、白内障手術、ドライアイをはじめとする前眼部治療のスペシャリストです。経験豊富な医師が最後まで責任をもって、大切な目の治療を担当します。



■ 吉田 陽子 (名古屋アイクリニック副院長)

- 1995 年 福島県立医科大学卒
- 日本眼科学会認定眼科専門医

先日、「LASIK に携わって 15 年目」ということに気づきました。当時生まれたばかりだった娘が、早いもので今年は高校生になります。当時は、本当に毎日があわただしく、あっという間に 15 年経ってしまいました。中村先生・スタッフ・家族に助けられ、何とかやってこられたことを感謝しております。

患者様には、安心して治療を受けていただけるよう、当院の基本理念である「ハートのある医療」を心がけ診療しています。また、最先端の医療の勉強も怠らないよう努めていきますので、今後ご指導をよろしくお願いいたします。



■ 小島 隆司 (非常勤医師)

- 1998 年 名古屋大学医学部卒
- 日本眼科学会認定眼科専門医

眼科分野では、医療器械の進歩が大きな治療技術の進歩に結びつくことが多々あります。角膜分野においても、フェムトセカンドレーザーの発達によるレーザー角膜移植や角膜リング手術など、患者様にとっても手術の正確性の向上や手術時間の短縮などの大きなメリットが得られるようになってきています。私は常に最先端の技術を取り入れ、それを消化し患者様に還元できるように努力していきたいと思っています。



■ 長谷川 亜里 (非常勤医師)

- 2006 年 山口大学医学部卒
- 日本眼科学会認定眼科専門医

医療技術の進歩により、様々な治療の選択肢が存在する世の中になりました。それぞれにメリットやデメリットもある多くの選択肢の中から、よりよい医療を選択しなければならぬという難しい問題に直面することもあります。

名古屋アイクリニックでは、国内外から根拠のある知識を多く取り入れることで、最新の技術や設備をいち早く導入できるようにしています。一方で、患者様の要望を把握することや、治療の内容について理解し、納得して治療を受けていただくことも重要であると考えていますので、患者様とのコミュニケーションも重視しています。個々の患者様にとって一番よい医療を選択し、提供する環境を用意できるよう、今後も努力していきます。

スタッフ紹介 *Staff*

看護部



4つの基本概念「健康の増進」「疾病の予防」「健康の回復」「苦痛の緩和」を念頭に置き、患者様と心かよいあう看護を提供できるよう努力しています。

日々、豊かな人間性の向上に努め、看護環境を整え、外来チーム、手術チームとともに切磋琢磨してレベルアップを図っています。また患者様と医師や視能訓練士、事務スタッフとの橋渡しの役割も担っています。

検査部



国家資格を有する検査員全員が、中京病院眼科にて研修、経験を積み、患者様にとってより良い方法が何かを常に考え、一人ひとりに合った治療方法や眼内レンズを提案することができます。検査の際は、患者様のお話にしっかり耳を傾け、コミュニケーションをとることで少しでも快適に検査を受けていただけるよう心がけています。日頃から自主的に勉強会に参加し、学会発表や論文の執筆に向けての研究も続けています。また、毎年平成医療専門学院の臨床実習を受け入れ、後輩の育成を積極的に行っています。

事務部



受付・事務だけでなく、カウンセリングや手術の説明など幅広く業務を担当しています。診療のサポートもできるように、学会や勉強会に参加し、知識を身につけ、意欲的に様々な分野の勉強をしています。

また、レベルの高い接遇を目指し、いつも笑顔で大切にして患者様が安心して治療を受けていただけるよう心がけています。

施設紹介 *Facilities*

外観



ビル入口



医院入口



総合受付



待合室



キッズスペース



検査室



診察室



診察室



カウンセリングルーム



眼精疲労マッサージルーム



4F 受付



4F 待合室



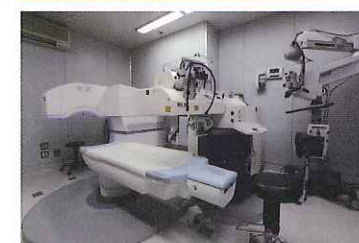
キッズルーム



手術室



屈折矯正手術機器



リハビリ室



ホスピタリティ Hospitality

■待合室

車いすスペースや、「携帯電話 OFF 席」を設置。
季節に合ったアロマ、給茶器や飴などもご用意。
待ち時間を快適に過ごしていただけるように、患者様にやさしい待合室を目指しています。



■パウダールーム

お化粧直しなどに使っていただけるパウダールームを用意しています。



■ホテルサービス

自費の手術をされる患者様には、無料でホテルに宿泊していただけるプランも用意しています。



ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋ロビー

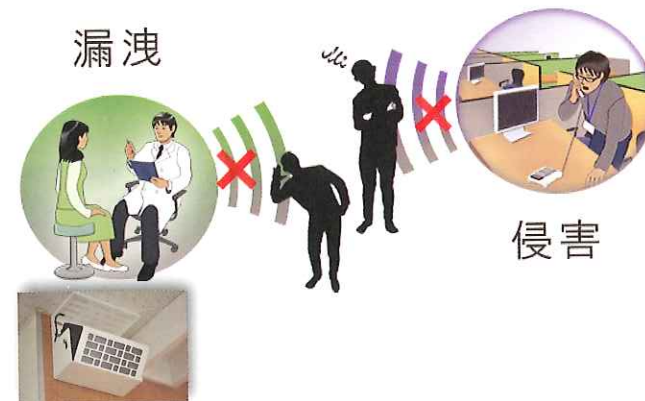
■コンシェルジュベル

患者様から気軽にスタッフへ声をかけていただけるよう、院内にスタッフ呼び出しボタンを設置しました。
質問やご相談、診察室で医師に聞き忘れたことなど、何でも承ります。
医療コンシェルジュを通して、患者様の不安を取り除き、細かなところにも配慮できる院内環境を目指しています。



■スピーチプライバシー

診察室やカウンセリングルームには、会話情報を保護するスピーチプライバシーを設置しています。



■タクシーサービス

手術日には、配慮の行き届いたデラックスタクシーにて安心してお帰りいただけるサービスを行っています。



タクシーの送迎

子育て支援 Child care support

■キッズスペース

待っている間も飽きないようにお子様用 DVD やおもちゃなどを用意しています。

■託児サービス「Kid's Eye Club」

時間のかかる検査や手術日に、保育士の資格・育児経験のあるスタッフが専用ルームにてお子様を大切にお預かりします。お母様だけでなく、お父様が手術をされる際にもご利用いただけます。

■おむつ交換台

女性用お手洗いに、おむつを交換できる簡易ベビーベッドを設けています。



情報発信 Information



院長ブログ「レーシック徒然草」

日常で感じたことなどを勝手気ままに語るブログ



ちょっといい話

診療を通してスタッフが院内で見つけた心温まる「ちょっといい話」を毎週1回お届け



小島医師ブログ「角膜外来日記」

ドライアイ、特殊コンタクトレンズ外来の診療で感じたことをノンフィクションで書き綴る



ツイッター https://twitter.com/Lasik_NIC

スタッフが目に関する様々な情報や医院の最新情報を随時つぶやいています

■地下鉄アナウンス

地下鉄名城線金山駅で、乗降客に対して当院のアナウンスが流れています。

■「安心レーシック完全ガイド～レーシックで後悔しないための必読書～」



2014年トピックス *Topics*

- 白内障専用ホームページリニューアル
- 新しい多焦点眼内レンズ (iSii, ReSTOR toric, Fine Vision) の導入
- 多焦点眼内レンズ 500 眼挿入
- 高速クロスリンキングの導入
- 舌下免疫療法シダトレン開始
- 睫毛貧毛症への治療 (グラッシュビスタ) 開始
- トーリック ICL 500 例の表彰
- 豊富な手術実績により、スターサージカル社から3年連続でトロフィー授与
- 第29回 JSCRS 学術総会で中村院長が Best of Refractive Surgery、吉田副院長が Best of Poster に選出



メディアリリース *Media release*

- 岐阜ラジオ「月～金ラジオ2時6時」の「目からウロコ! 眼科最前線」のコーナーに出演
毎月第3木曜日の14時30分から放送されており、目に関する情報をわかりやすく紹介しています。



- 2014.10.14 中村院長がCBC「ゴゴスマ」に生出演
中村院長が、昨年に引き続きCBCの情報番組「ゴゴスマ」に生出演し、急増するカラーコンタクトレンズのトラブルを防ぐために、眼科を受診することの大切さをお話しました。

新しい機器 *New Equipment*

■ コルビス ST

圧縮空気吐吐機能と超高速シャインブルークカメラを搭載し、眼圧や角膜厚を測定する機能と、生体力学特性の測定および角膜変形の様子を観察する機能を併せ持つ



■ 前眼部 OCT CASIA

フーリエドメイン方式による前眼部 OCT で、高速スキャンによる三次元撮影が可能



白内障手術 *Cataract surgery*

当院は屈折矯正手術専門医院ならではの「術後屈折」にこだわった白内障手術を心がけています。手術は水曜日と金曜日の午前中、出来る限り1ヶ月以上お待たせしないよう、受け入れ体制を整えています。

ご紹介をいただく場合、通常は術前検査と手術のみを当院で行い、術後は速やかにご紹介くださった施設へお戻りいただいています。また、遠方の方、仕事が忙しい方、強度近視の方には一度に両眼の手術を受けていただくこともできます。その際に必要となる手術器具の管理や、術後のケアには細心の注意を払っておりますのでご安心ください。

お付添いの方にも、コーヒーなどを飲みながらゆったりとお待ちいただくことができるよう、診療とは別の階にある専用待合室をご用意しました。

手術後は、点眼や生活上の注意点などをお付添いの方にもご説明し、お帰り時にはタクシーサービスもご利用いただいています。手術当日の午後、執刀医が直接ご本人にお電話し、術後の状況を確認します。その後は緊急携帯電話にて対応いたします。



■ 先進医療実施医療機関

多焦点眼内レンズを用いた白内障手術は先進医療技術に規定されています。

先進医療実施医療機関に承認されている当院にて「先進医療」として同手術を行った場合、手術費以外の検査代、薬の処方代などは保険が適用されます。生命保険で先進医療特約に加入している場合、手術費の全額が補助されます。

(ただし、累計が保険額の上限に達している場合を除きます。)

当院では約14%の方が多焦点眼内レンズを選んでいきます。

■ LASIK 後や円錐角膜の眼内レンズ度数

現在 LASIK 術後の決定的な眼内レンズ計算式は存在しませんが、我々は入手可能なほぼ全てのレンズ計算式を用い、症例ごとに微調整を加えて眼内レンズ度数を計算しています。この結果、3ヶ月での術後矯正精度は±1.0D が81%、術後平均は0.51D となっています。また、円錐角膜などの不正乱視に対しても、眼内レンズ計算のノウハウを蓄積しています。もし、お困りの先生がいらっしゃいましたら、眼内レンズ度数計算だけでもさせていただきます。

■ 白内障術後のタッチアップ LASIK

白内障術後の残余乱視や、屈折エラーに対して目に優しいフェムトセカンドレーザーを使用したタッチアップ LASIK を行う診療システムをご用意しています。白内障手術は屈折矯正の要素も兼ね備えるようになり、度数ズレは術後満足度から考えると、極力避けなければなりません。とくに多焦点眼内レンズなどのプレミアムレンズの導入に当たっては、より正確な眼内レンズ度数計算が求められます。球面度数のエラーは許されず、術後乱視度数は0.5D 以内が望ましいとされています。術後の視力にこだわりのある患者様など、術後の満足度を高めるためにご協力いたします。

■ 取扱いレンズ

◎ 単焦点眼内レンズ

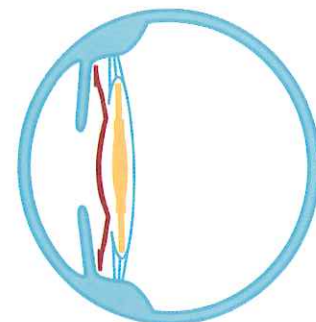
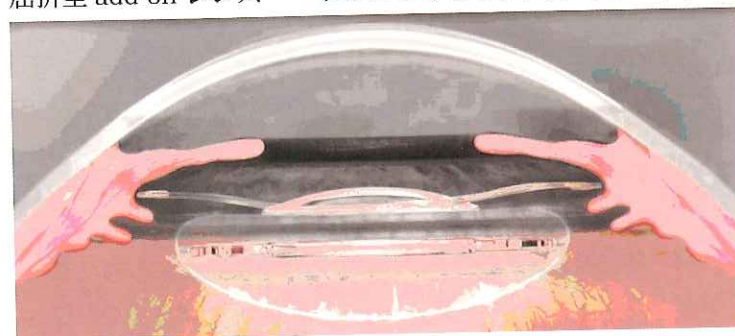
着色眼内レンズ、非球面眼内レンズ、トーリック眼内レンズ

◎ 多焦点眼内レンズ

					
名称	Tecnis Multifocal テクニスマルチ	ReSTOR レストア	iSii アイシー	Lentis レンティス	FineVision ファインビジョン
光学部デザイン	回折型	回折型	屈折型	分節状屈折型	回折型
乱視矯正	無し	有り (40cmのみ)	無し	有り	有り
焦点の数	2点	2点	2点	2点	3点
近くの焦点距離	30cm	30cm、40cm、50cm	50cm	40cm	30cmと60cm
先進医療	○	○	○	×	×
納期	2週間	2週間	2週間	乱視無し 1ヶ月 乱視有り 3ヶ月	3週間
お勧め	近くの見え方が 重要な方	パソコンの距離が 大切な方	遠くの見え方が重要で クリアな視界を 求める方	より自然な見え方を 求める方	遠く、中間、近くの すべてがある程度 見たい方
読書	◎	○	△	○	○
PC	○	◎	○	○	○
ゴルフ	○	○	◎	◎	○

■ ビギーバック

屈折型 add-on レンズ サルコフレックス (レイナー社)



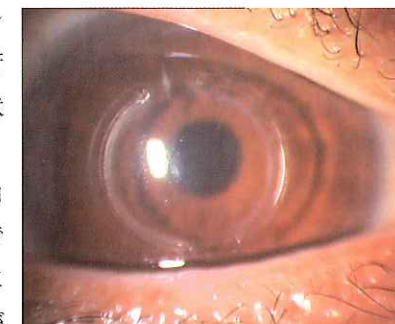
眼内レンズのパイオニア、英国のレイナー社製のアクリルでできたレンズです。通常の単焦点眼内レンズで白内障手術を受けられた方に、もう一枚重ね合わせるレンズとして開発されました。屈折エラーや術後ターゲット度数に不満をお持ちの患者様の屈折調整に単焦点レンズの挿入を行います。また、単焦点眼内レンズから多焦点眼内レンズへ変更を希望されている患者様へは屈折型の多焦点レンズを挿入します。レンズの直径は6.5mmと充分大きく、術後の夜間の光のまぶしさを感じないように作られています。またハプティクスの凸凹により回転を防ぐとともに、角度が10度つけてあることによって虹彩との距離が保たれ、術後の炎症などを防いでいます。このように様々な工夫により、安全で確実に、眼内にもう一枚のレンズを挿入することができるようになりました。2014年は度数ズレの補正に単焦点1眼、多焦点3眼を挿入しました。

角膜外来 Cornea

角膜外来は、難治性角膜ヘルペスのような感染症、外傷後や角膜ジストロフィーなどによる角膜混濁、円錐角膜などをはじめとして、眼表面のあらゆる病気を対象にしています。

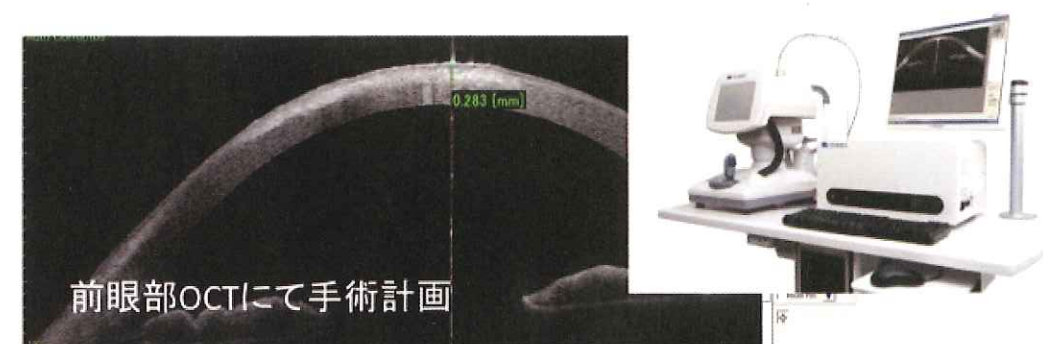
円錐角膜治療

進行予防の角膜クロスリンク治療から、視力を十分に出すためのコンタクトレンズ処方 (円錐角膜用ハードコンタクトレンズ、ボストンレンズ)、角膜リング手術を行っています。角膜クロスリンクは単に進行予防効果だけでなく、角膜形状を改善する効果もあることが分かっています。フェムトセカンドレーザー VisuMax を用いた角膜リング挿入術は、写真のように角膜内にリングを挿入することで、円錐角膜の不正乱視をある程度矯正することができます。コンタクトレンズや角膜リングで矯正不能な場合は、角膜移植も積極的に行っています。その場合は術後に拒絶反応を起こして再移植が必要になるリスクがほとんど無い深層移植を第一選択に行っています。



レーザー角膜移植

当院ではレーザー角膜移植を日帰りで行っています。手術の実質的な時間は局所麻酔下1時間程度で、それほど体に負担になるような手術ではありません。本年は、前眼部 OCT を導入し、術前の角膜混濁の深さをさらに正確に測定することが可能になりました。フェムトセカンドレーザーを用いると正確にドナー角膜と患者様の角膜の大きさ、深さを合わせることができます。入院が必要な方の手術は中京グループの中京病院、または岐阜赤十字病院に紹介させていただき、小島医師執刀で行っています。



前眼部OCTにて手術計画

フェムトセカンドレーザー
VisuMaxにて狙った深度
で混濁を切除



ドライアイ外来

一言でドライアイと言っても、様々なタイプのドライアイが存在します。現在ドライアイ研究会が提唱しているのが、涙液層のどこに異常があるかを診断（Tear film oriented diagnosis）して、どの層を治療するのか（Tear film oriented therapy）を決める方法です。油層の異常であれば、マイボーム腺炎の治療、マイボーム腺マッサージの指導などを行っています。またマイボグラフィを導入し、マイボーム腺の画像診断も可能になりました。水層の異常に対しては、涙点プラグ、ジクアホソル点眼などを組み合わせて治療しています。角結膜上皮層の異常に対してはレパミビド点眼や自己血清点眼で傷の修復を促します。このように、ドライアイでも涙のどこに異常があるのか総合的に判断して治療を行うように心がけています。

眼瞼下垂

眼瞼下垂では瞼が下がって見づらくなったり視野が狭くなったりします。多くは、年齢とともに瞼を上げる筋肉の力が弱くなり起こりますが、ハードコンタクトレンズを長期間使用されたことで起こる眼瞼下垂もあります。術式は埋没法、ミューラー筋前転法及び挙筋腱膜前転法など、患者様の状態に応じて手術を行っています。

眼瞼内反症

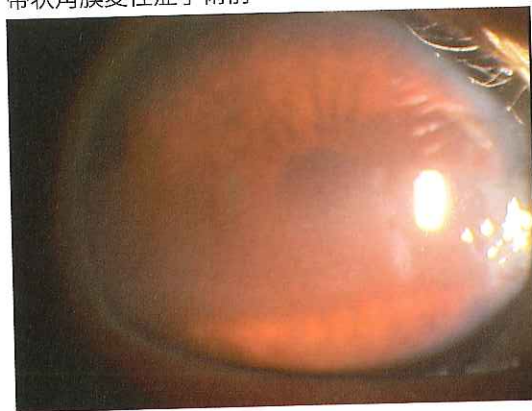
よく"逆まつ毛"と言われますが、実際は瞼が内側に向いてしまうためにまつ毛が眼表面に当たって異物感を感じたり、傷をつけたりしてしまう病気です。手術で瞼を正常の位置に戻すことで治療を行います。

PTK：治療的角膜切除術

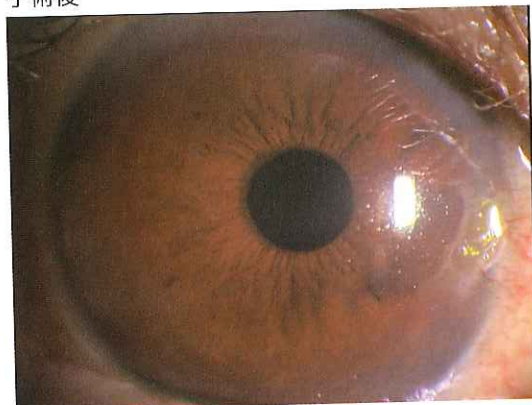
エキシマレーザーを使用して、角膜の混濁を取り除きます。

帯状角膜変性などの角膜表層混濁・角膜ジストロフィー・アベリーノ角膜変性症・再発性角膜上皮びらんなどに有効です。従来の方法でPTKを行うと、角膜表層の不整が残り、角膜の扁平化により遠視化が起こります。そのため混濁は取れても、視機能の低下が続き、矯正視力は上がるものの裸眼視力が低下する症例もあります。また、どの程度まで混濁を除去するのか見極めも難しく、単にレーザー照射をするだけでは、角膜が不整になり、術前よりも矯正視力が低下する場合があります。そこで当院では、術後の良好な裸眼視力を目指したPTRK(Phototherapeutic Refractive Keratectomy)を考案しました。PTRKは角膜混濁例に対し、混濁除去だけでなく角膜表層の不整も改善し、屈折矯正を加えることにより矯正視力だけでなく裸眼視力も良好となり、術後のQOLを改善することが出来る満足度の高い手術手技と思われます。これらをまとめ、2014年JSCRSで『術後屈折に配慮した治療的角膜切除術 PTRK』を発表し、Best of Refractive Surgery に選ばれました。

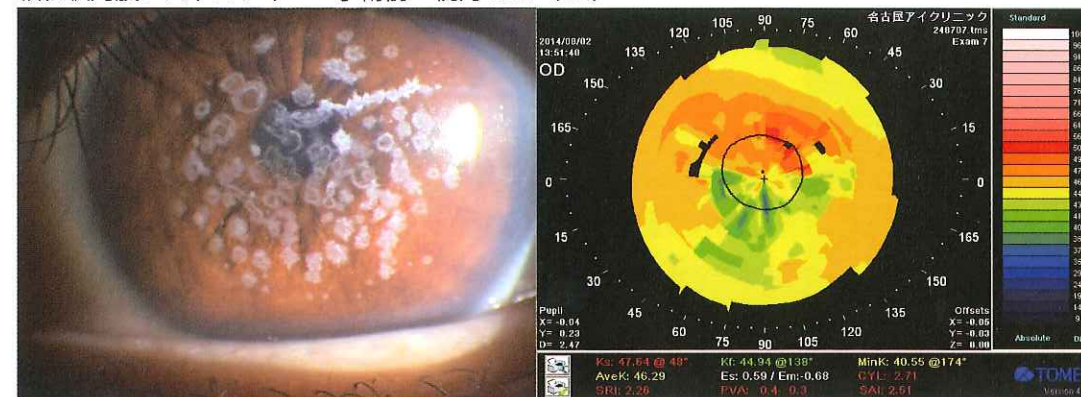
帯状角膜変性症手術前



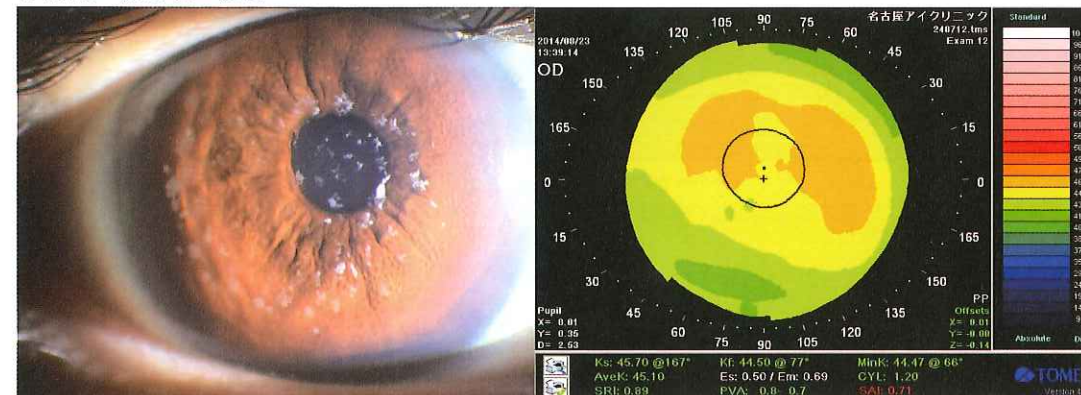
手術後



顆粒状角膜ジストロフィー 手術前 視力 0.15 (0.4)



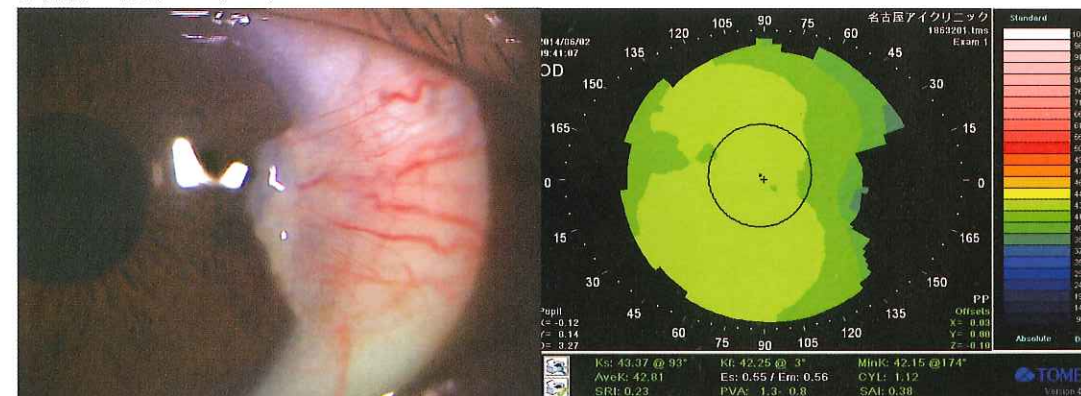
手術後 視力 0.7 (0.8)



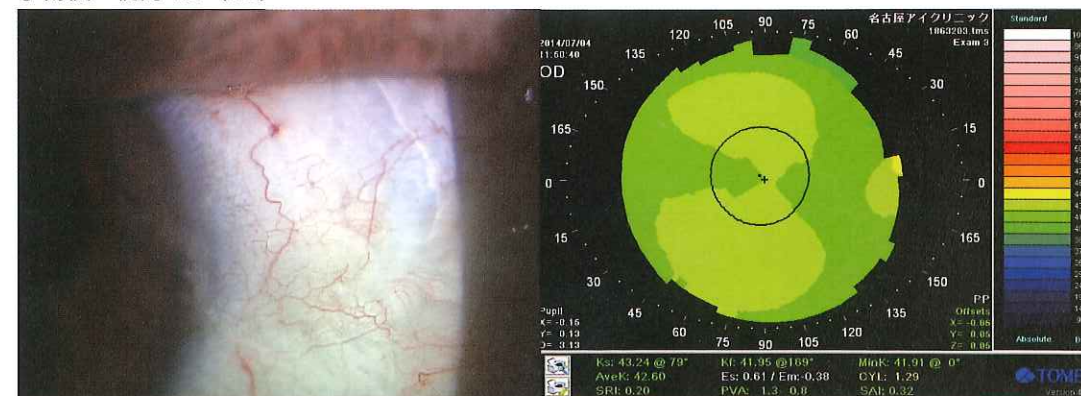
翼状片

角膜不正乱視を惹起して視機能にも大きく影響を与えることが知られています。当院では充血を残さない美しい仕上がりを目標に手術を行っており、再発率はほぼ0%です。基本的な術式は、遊離移植弁を使用した切除術で、約20分の日帰り手術です。再発例には、羊膜移植、マイトマイシンを組み合わせ、難治性の翼状片でも視力を回復することが出来ます。

手術前 視力 1.2 (n.c.)



手術後 視力 1.5 (1.5)



屈折矯正手術 Refractive Surgery

専門家に選ばれる施設であること

名古屋アイクリニックで眼科手術を受けられた医療関係者
医師：159名 看護師：251名 ※2014年12月20日現在



Vietnam National Institute of Ophthalmology の Phu 先生が
SMILE について学ぶため研修にいらしていました。

当院の患者様には、医師や看護師がとて多いという特徴があります。同じ医療職だからこそ、より厳しい目で医療機関を選びます。その厳選の結果が当院であることを、私たちは大変誇りに思っています。



LASIK

フェムトセカンドレーザーの中でも極めて高い性能を誇る『VisuMax』を、2008年にアジア太平洋地域で最初に導入。この次世代型レーザーを用いることで、従来のLASIKよりもさらに薄く精度の高いフラップの作成が可能となりました。また、2012年から開始したフラップを作らない画期的なレーザー屈折矯正手術 (ReLEx smile) を選択される患者様も年々増加しています。

●安心LASIK ネットワークの発足当初からの会員です。

安心LASIK ネットワークとは、LASIKの正しい情報を発信し、手術後のフォローまでトータルな医療を行うことを目的として作られた大学病院と眼科専門医のネットワークです。



ReLEx smile (リレックス スマイル)

～LASIKに代わる次世代の視力回復手術～
「ReLEx smile (リレックス スマイル)」は、フラップを作らない点が最大の特徴。レーザーを照射して角膜内部にシート状のレンチクルを作成し、角膜表面につけた2mmの小さな創口から、そのレンチクルを取り除くことで視力を回復させます。1/1000ミリ単位と非常に精度の高い切除が可能なので、矯正精度も高く、術後の屈折も安定。手術後の近視への戻りや暗い場所で光がにじむハロー・グレア・スターバーストも出にくくなります。
また、フェムトセカンドレーザーは、温度や湿度の影響を受けにくく、常に安定したレーザー照射が可能なので、ねらい通りの術後結果を得られるという利点もあります。術後にフラップがずれる心配がなく、外からの衝撃に強いのも特徴。人と接触する可能性があるスポーツをされる方にも、安心して受けていただくことができます。
安全性と術後の視界のクリアさにおいてレーシックを超えた新しい屈折矯正方法です。

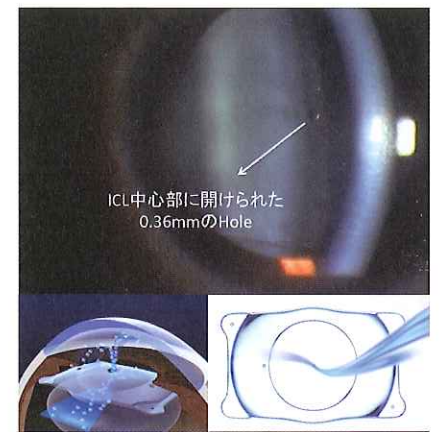
< ReLEx smile の利点 >

- 矯正精度が高く、近視への戻りが少ない
- 痛みが少ない
- ドライアイになりにくい
- 角膜の生体力学特性が保たれる
- 外部からの衝撃に強い



Hole ICL

名古屋アイクリニックは、2005年3月に「フェイキック IOL」を開始し、日本ではもとより、世界でも有数の手術実績を誇っています。2012年10月から開始したホール ICL は、北里大学清水公也教授の考案による新しいタイプのレンズで、従来の ICL のレンズの中心に 0.36mm の小さな穴が開いており、そこから房水が前眼部へと流れるよう設計されています。そのため、白内障や緑内障といった術後合併症が起こりにくいと言われています。また、レンズの穴は視力などの視機能には影響がないと言われています。術前のレーザーによる虹彩切開を必要としないため、患者様の負担がより少なくなり、今ではすべての患者様がホール ICL を選択しています。



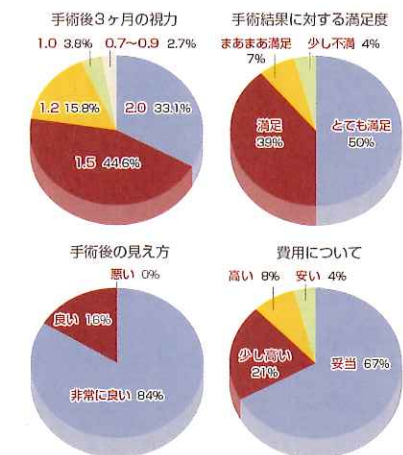
スターサージカル社製の眼内レンズ ICL を用いた手術実績により、同社からトロフィーと ICL 1000 Club の認定証、トーリック ICL500 眼達成楯が授与されました。



中村院長、小島医師はスターサージカル社から認定されたインストラクターの資格を持ち、講習会の講師も務めています。この資格は、知識・指導力と共に高い倫理感も求められ、日本ではわずか10名ほどの限られたエキスパートだけが有するものです。



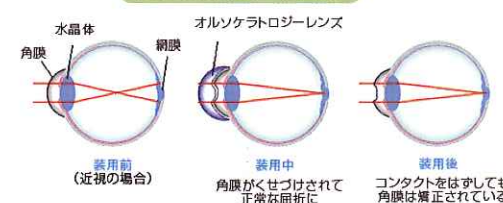
最近視力回復手術を希望して来院された患者様の5人に1人の方が、フェイキック IOL を選んでいます。



オルソケラトロジー Orthokeratology

就寝時に装着する特殊な加工がされたハードコンタクトレンズで、装着開始から2週間ほどで日中は良好な視力を保てるようになります。スポーツなどでメガネやコンタクトレンズが装着できない方にお勧めです。

オルソケラトロジーの仕組み



☆医療費控除の対象になります。

オルソケラトロジーレンズ「プレスオーコレクト/マイエメラルド」は、厚生労働省によって認可されています。

TORAY プレスオーコレクト

- レンズの素材がやわらかく、割れにくいので、お子様にも安心
- 酸素透過性が高く、内皮障害のリスクが少ないため、就寝時に装着しても安心、安全
- 日本製 (東レ) で、日本人の角膜形状に合ったレンズデザイン

一般的に、日本人の角膜は欧米人の角膜に比べ、角膜中心部に突出の少ないフラットな形状になっています。プレスオーコレクトは日本人の目に合うように設計されているため、角膜中心部に突出の少ないフラットな球形角膜にも安全に処方でき、角膜への吸着が少なく、レンズの動きによって涙液の交換が良好におこなえるようデザインされています。

マイエメラルド

- アメリカ製で、オルソケラトロジーとしての歴史が長い
- 日本では2009年4月に厚生労働省が認可
- 近視矯正効果が出るのが比較的早い



その他

アレルギー外来

アレルギー疾患の有病率は世界的に増加しており、また低年齢化していると言われています。主に難治性のアレルギー性結膜疾患で原因や生活上の注意点を知りたい方や、角膜障害、点眼ではコントロール不良の重症なアレルギー性結膜疾患の方を対象としています。涙液中総IgE抗体測定（アレルウォッチ涙液IgE）、血液検査での抗原特異的IgE抗体測定（RAST法のほかに、イムノクロマト法により8項目の結果がその場でわかるイムノキャップラビッドも検査可能）、皮膚テストや点眼誘発テストなどによってI型アレルギー反応の証明を行うことで、原因となる抗原の種類に応じた回避法を提案します。治療は点眼などの外用療法を中心として、重症例ではステロイド結膜下注射や結膜乳頭切除などの外科的治療を組み合わせで行います。

舌下免疫療法

スギ花粉症を対象とした「舌下免疫療法」のための治療薬シグトレンが発売開始され、当院でも治療を開始しました。これは、原因となるアレルゲン（スギ花粉）を少量ずつ摂取することを繰り返してアレルギー症状を徐々に緩和させる治療で、アレルゲン免疫療法と呼ばれています。症状緩和を中心とした既存の治療法と違い、アレルギー体質そのものを少しずつ変えていくという、新しい画期的な方法です。アレルゲン免疫療法としては、従来から皮下注射でアレルゲンの摂取を継続していくという皮下免疫療法が行われてきました。舌下免疫療法は、皮下免疫療法と比較して全身に影響を及ぼす重篤な副作用が少なく、安全面でも注目されています。花粉飛散期の3ヶ月程度前からの治療開始が必要ですので、スギ花粉症の場合2月ぐらいから花粉飛散が始まることを考えると、11月以前からの治療開始が望ましいとされています。

眼精疲労外来

眼精疲労はいくつかの原因が組み合わさって起こり、様々な症状が現れます。ひとつひとつ原因解明を行い、根気よく治療することが大切です。

医師と経験豊富な視能訓練士が時間をかけて原因究明し、最適な治療法をご提案します。また、アロマの香りに包まれた部屋で目の疲れに効くツボ押しマッサージによって心身ともにリラックスしていただけます。

当院では、アロマセラピストの資格があるスタッフがマッサージをし、サウンドヒーリングも取り入れています。

サウンドヒーリング

音は音波として、体の細胞に細かな波紋を広げ、体の中を伝わっていきます。

心地よい上質の体感振動として体の深部に物理的マッサージ効果を与え、血流やリンパの流れを促進させます。ヘッドホンで音楽を聴きながら、サウンドクッション（リラックス効果の高い低音域の音を骨伝導で体に伝える）をおなかや背中に当て、体と心を癒します。



睫毛貧毛症への治療

睫毛貧毛症を治療する外用薬グラッシュビスタを2014年11月に導入しました。初診時2万5千円（検査、診察、薬代）で、カウンセリングと眼科検査の上、外用薬を処方します。



その後は安定したら2ヶ月に1度来院していただきます（2回目以降の処方2万円：検査、診察、薬代）。

日本人での臨床試験において、特発性睫毛貧毛症や、がん化学療法による睫毛貧毛症の成人患者に4ヶ月使用した結果、評価スケールで1段階以上の改善が75～89%認められたと報告されています。副作用のなかに、虹彩色素過剰や眼瞼溝深化、眼瞼色素沈着や結膜充血がありますので、眼科での処方と経過観察が必要です。

子供の近視抑制プロジェクト

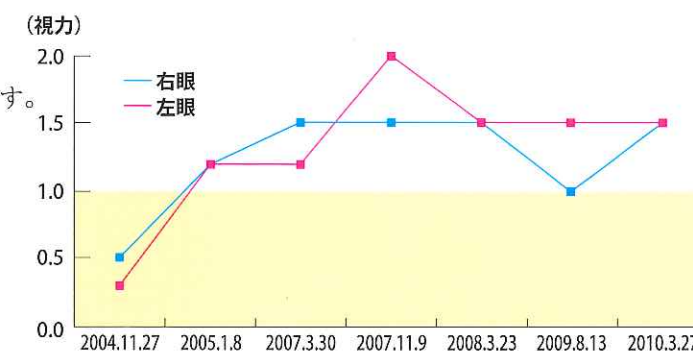
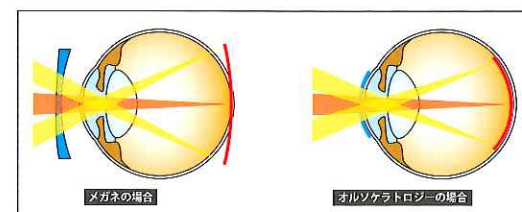
最近では、エビデンスに基づいた近視抑制方法が数多く報告されています。当院では、お子様にもできる安全な近視抑制方法をご提案しています。

■オルソケラトロジー

近年、オルソケラトロジーコンタクトレンズの近視抑制効果について、国内外で様々な研究が行われ発表されています。近視眼に対して通常の単焦点メガネで矯正を行うと、周辺部の遠視性デフォーカスを生じます。それに対してオルソケラトロジー後は周辺部角膜が肥厚、スティープ化するため周辺での屈折力が増し、その結果、周辺網膜像での遠視性デフォーカスが改善するという仮説が提唱されています。

〈症例〉オルソケラトロジーを9歳（小学校4年生）から開始し、9年以上経過した女子の視力の経過

9年以上経過した現在も、近視が進行することなく両眼1.5以上の良好な視力を維持しています。角膜内皮細胞への影響も全く認められていません。小学校4年生から高校3年生までの成長期に近視が進行していないことから、抑制効果を得られる可能性があるのではないかと考えられます。



■アトロピン 0.01%点眼液

以前から、アトロピンには近視進行抑制効果があることが分かっていたのですが、副作用が強く、子供には使えないと考えられてきました。しかし、最近濃度を薄くしても十分効果があるという報告があり、再び近視予防に使われ始めました。アトロピンは眼軸長延長に関与する脈絡膜や強膜に分布するムスカリン受容体に直接作用し、これをブロックするため、近視進行抑制効果があると言われています。100倍に薄めたアトロピンでは散瞳作用や調節麻痺作用は起こりません。海外の論文では、副作用を最小限にして、なおかつ十分な近視進行抑制効果が得られることが示されています。1日1回点眼します。

■トロピカミド点眼液

効果が弱く、2～3ヶ月で効果がなければアトロピン処方やメガネ処方を行います。

■サポートメガネ

調節力をサポートするメガネ（累進焦点メガネ）です。調節ラグを軽減させ、眼軸延長を抑制すると言われています。

■遠近両用コンタクトレンズ

8歳くらいまでが効果的と言われています。

学会発表

■第37回日本眼科手術学会学術総会

シンポジウム『後房型有水晶体眼内レンズ』中村友昭

教育セミナー『ICL手術の合併症とその対策』中村友昭

一般講演『単焦点眼内レンズ挿入眼にビギーバック挿入したRayner社製レンズの報告』

横山郁文(中京病院)

■角膜カンファランス 2014

第38回日本角膜学会総会・第30回日本角膜移植学会

『白内障術前の角膜前後面曲率半径比が術後屈折誤差に及ぼす影響の検討』

長谷川亜里

シンポジウム1「Controversies in Cornea」

『血清点眼は是か非か』小島隆司

■第427回東海眼科学会

『円錐角膜の屈折矯正及びハードコンタクトレンズフィッティング改善目的で行った角膜リング挿入術後報告』

長谷川亜里

■第118回日本眼科学会総会

ランチョンセミナー『酸化ストレスとドライアイ』

小島隆司

■第29回JSCRS学術総会

〈シンポジウム〉

『屈折矯正手術アップデート』

中村友昭

〈インストラクションコース〉

『ORTが知っておくべき白内障術前検査の基礎知識』

磯谷尚輝

〈一般講演〉

『術後屈折に配慮した治療的角膜切除術 PTRK』

中村友昭

『超音波整体顕微鏡を使用したヒト水晶体の測定』

馬嶋清如(眼科明眼院)

〈学術展示〉

『Implantable collamer lens KS-AquaPORTの挿入術後経過報告』

長谷川亜里

『アトピー性白内障に対しトーリック眼内レンズを挿入し、術後2年で回転を起こし3年で入れ替えた一例』

吉田陽子

■第50回日本眼光学学会総会

〈一般講演〉

『SMILE施行眼とLASIK施行眼の中心部および周辺部の矯正効果に関する検討』

片岡嵩博

■第68回日本臨床眼科学会

『片眼LASIK、片眼Small Lenticle Extractionを施行した症例の術後成績の比較』

澤木綾子(岐阜赤十字病院)

『円錐角膜症例におけるCorvis ST値と角膜パラメーターとの相関』

小島隆司

『白内障サーजनも必見! LI不要! 貫通孔付き有水晶体眼内レンズをマスターしよう』

中村友昭

『屈折矯正手術 2014 最先端の現場より』

中村友昭

『超音波生体顕微鏡を使用した水晶体前面、後面の曲率半径の測定』

馬嶋清如(眼科明眼院)

■第55回日本視能矯正学会

〈一般講演〉

『SMILEとLASIK術後の1年経過報告』

片岡嵩博

『高速シャインブルーク技術を用いた眼圧計 Corvis ST と他の器械の比較』

西田知也

■XXXII Congress of the ESCRS

『Comparison of biomechanical properties between eyes after small incision lenticule extraction (SMILE) and laser in situ keratomileusis (LASIK).』

Takashi Kojima

論文・執筆

『進行性円錐角膜に対して行った角膜クロスリンキング術前後における角膜形状変化の検討』

森川桃子「日本視能訓練士協会誌」

『ICL適応決定、レンズ選択のための画像診断』

中村友昭「眼科クオリファイ 24 前眼部の画像診断」

『後房型有水晶体眼内レンズ』

中村友昭「眼科エキスパートシリーズ 知っておきたい屈折矯正手術」

『後房型フェイキック IOL (ICL) 手術の周術期管理』

中村友昭「臨床セミナー」 IOL & RS Vol.28, No.2, 2014

『円錐角膜の屈折矯正およびハードコンタクトレンズのフィッティング改善目的で行った角膜リング挿入術後報告』

長谷川亜里

眼科臨床紀要 7巻7号 549

『新しい治療と検査シリーズ 213. 承認された Implantable Collamer Lens.』

小島隆司

あたらしい眼科 31巻1号 71-73

『屈折矯正手術セミナー—スキルアップ講座—170.Hole ICL』

小島隆司

あたらしい眼科 31巻7号 999-1000